

令和元年7月

大田区MICE資源の特徴

区内MICE施設の現況として、大規模なコンベンションに対応できる区立施設については余力が僅少であることが報告されている。一方で、第1回推進会議ではMICEの小規模化、小型ミーティングビジネスが拡大しつつある現状報告をふまえ、注目されやすい大規模案件やCEだけでなく、中小規模案件やMIにも着目することについて、大田区らしいMICEとして可能性の議論がなされたところである。

そこで、区立施設以外の区内MICE施設についても現況を整理し、区内における中小規模MICEの可能性を検討するための基礎資料とした。また、今後、活用が期待される資源として、これまでに話題が提供された、ユニークベニューとスポーツMICE関連施設についても整理した。

1. 大田区内にある民間の会議室資源の特徴

株式会社ティーケーピー¹（以下、TKP）の2018年2月期有価証券報告書によれば、貸し会議室ビジネスは、不動産賃料の上昇に伴う企業・団体オフィスの省スペース化により、今後も需要の伸長が期待できる、とある。同文書によれば、利用目的は3～6月に集中する採用活動や新入社員研修が主だが、下半期の懇親会需要も大きいとのことである。大田区内の貸し会議室の現状を他地域と比較することで、大田区内での開催において可能性のあるMICE規模について、特にMIを念頭において整理する。

（1）大田区と他地域での規模別会議室分布の比較

掲載されている民間会議室の数が多い「会議室.COM」、「JMA会議室リサーチ」に加え、東京観光財団ホームページ、大阪観光局「コンベンション施設ガイド」によって、公的機関が管理する会議室も対象に加え、各地域別に規模別会議室数を把握した。

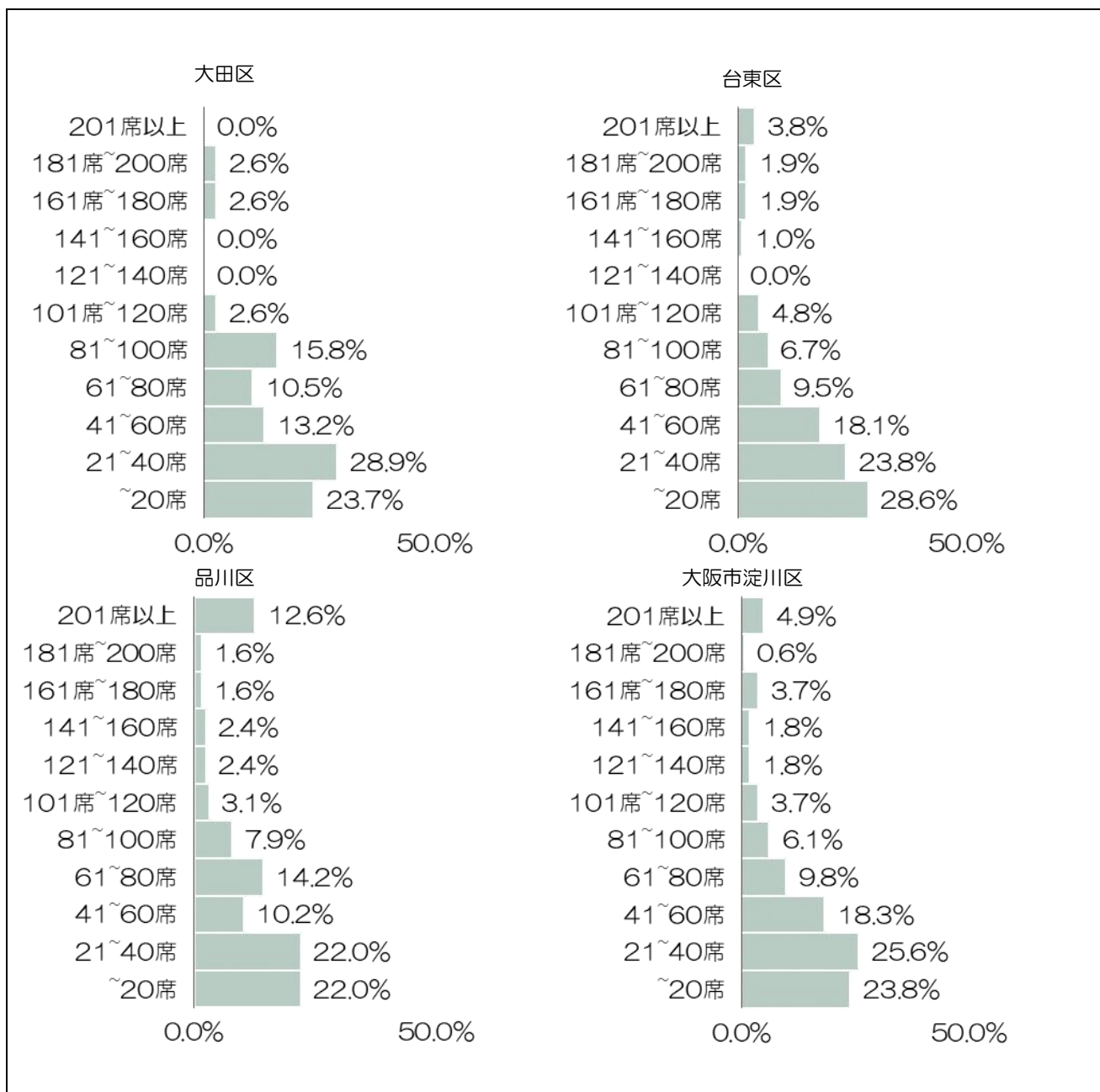
なお、東京都特別区においても、5施設以上の登録があったのは11区（豊島区、文京区、台東区、新宿区、千代田区、中央区、江東区、渋谷区、港区、品川区、大田区）にとどまり、東京においても全ての区で会議室ビジネスが成立するわけではないと考えられる。この点もふまえ、東京都特別区から上位11区と大阪市の淀川区を対象に、区別に規模別会議室数を把握した。

大田区の会議室資源の現状を確認するための比較対象として、上記により把握した大田区の会議室数は「38」。都心地域と比較するとかなり少なめで、都内でも特に会議室の需給の中心である港区の4.8%、新宿区の9.7%となっている。また、100席以上の大規模会場も少ない。

¹ 貸し会議室を営む企業で、唯一の上場企業

類似地域と比較した場合、台東区や品川区、大阪市淀川区が小規模会場の比率が高いことに比べ、大田区は中規模会場の比率が高くなっている。

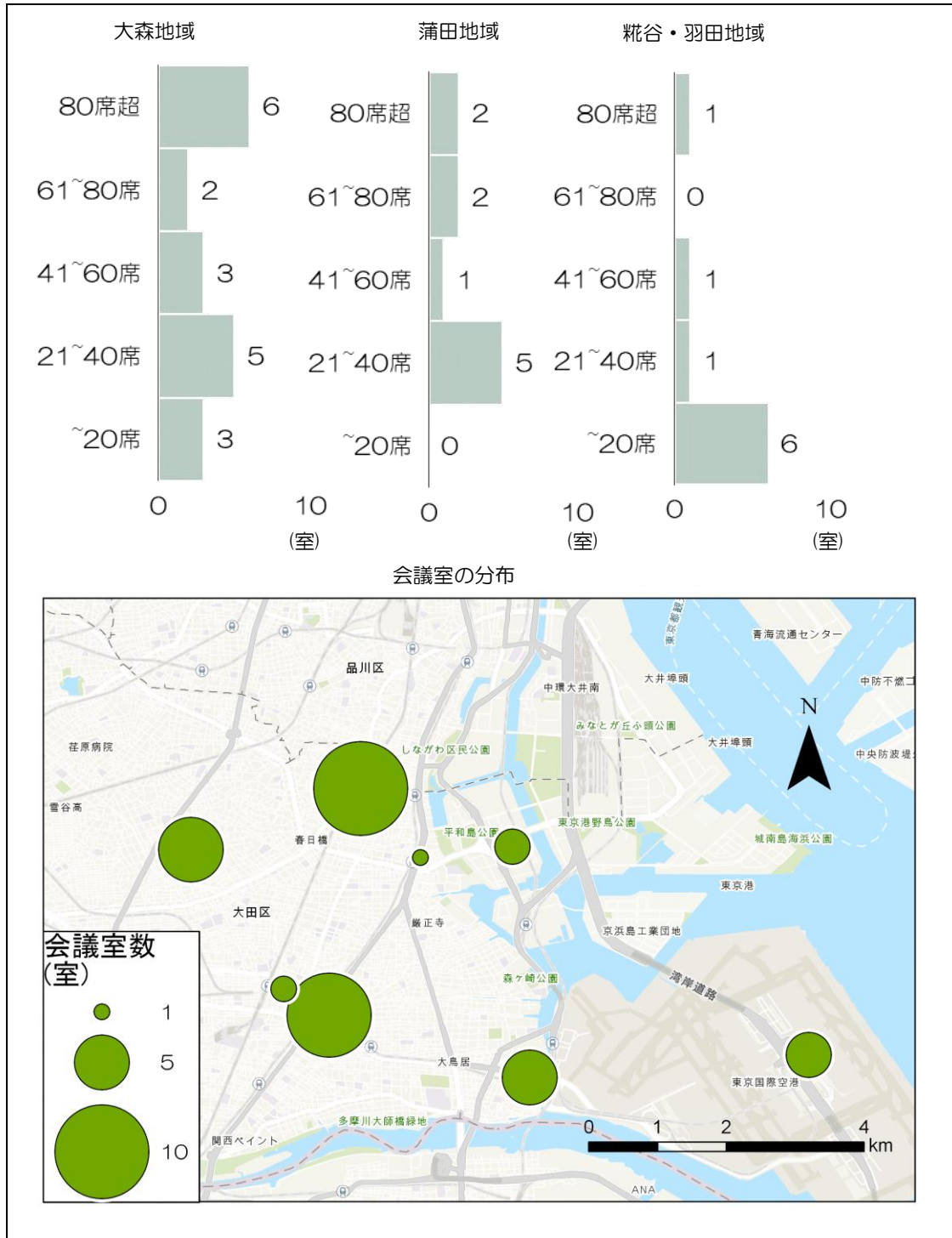
図表 1 大田区と類似地域との規模別会議室数比較



資料) 「会議室.COM」、「JMA会議室リサーチ」、東京観光財団ホームページ、大阪観光局「コンベンション施設ガイド」より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

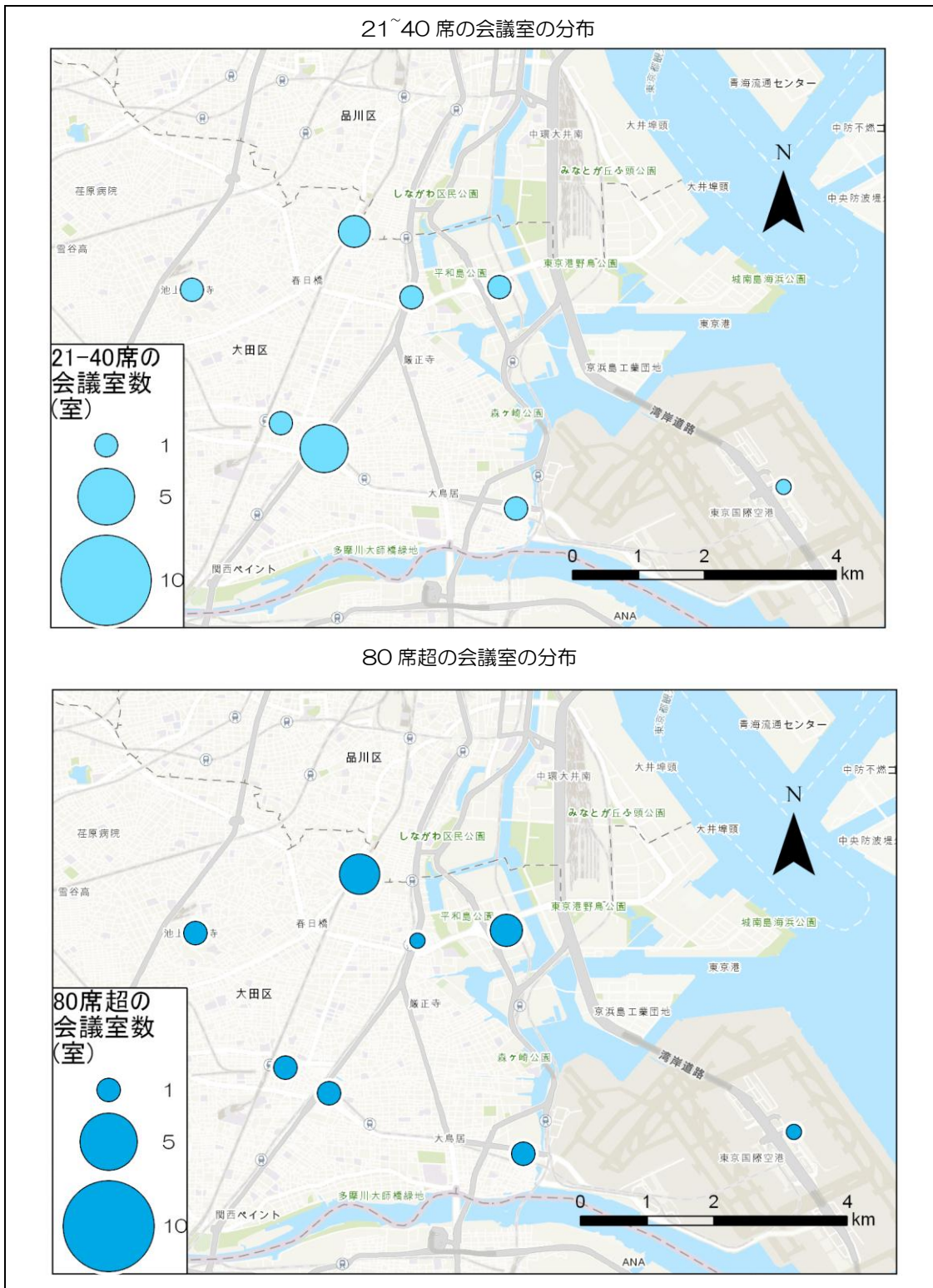
区内の地域別で会議室分布をみると、会議室は大森地域と蒲田地域に多く立地しており、糀谷・羽田地域に立地している会議室は小規模なものが多い。また、相対的に規模の大きい会議室は、大森地域に多く立地している。

図表 2 大田区内における地域別会議室の立地



資料) 「会議室.COM」、「JMA会議室リサーチ」、東京観光財団ホームページより三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

図表 3 大田区内における特定規模の会議室の分布



資料) 「会議室.COM」、「JMA会議室リサーチ」、東京観光財団ホームページより三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

2. これからの活用が期待される MICE 資源について

(1) ユニークベニュー

歴史的建造物や文化施設、公的空間等の特徴的な場所（ユニークベニュー）を利用することで、参加者はその土地ならではの特別な体験をすることができる。また、地域側としても通常のMICE施設以上に、参加者に地域の文化を印象付けることができるという点で注目されている。東京観光財団「BUSINESS EVENTS TOKYO」には、東京のユニークベニューが紹介されているが、大田区内では池上本門寺が掲載されている。

そのほかに、大田区内でユニークベニューとして活用の可能性がある施設を検討するにあたり、他地域におけるユニークベニュー活用例を閲覧し、類似性のある区内施設を抽出したところ、文化施設で4施設、公園で4施設を抽出した。なお、抽出した施設は区営に限っていないが、それらの施設においても貸出制度が存在するか、管理者にユニークベニューとしての活用の意欲があるかどうか等は、現時点では抽出条件とはしていない。

図表 4 今後、大田区内でユニークベニューとしての活用が考えうる資源

類型	大田区内の資源	ユニークベニューとして活用されている施設
文化施設	勝海舟記念館(9月7日開館予定) 大森 海苔のふるさと館 龍子記念館 山王草堂記念館	いでは文化記念館(山形県) 山形美術館(山形県) 鳥羽市立海の博物館(三重県) 北野異人館 旧レイン邸(兵庫県)
	多摩川台公園古墳展示室 平和の森公園 大森ふるさとの浜辺公園 東京港野鳥公園	モエリ沼公園(北海道) 浜離宮恩賜庭園(東京都) 平城宮跡歴史公園(奈良県)

資料) 日本政府観光局「コンベンションの誘致・開催支援」ホームページ、東京観光財団「BUSINESS EVENTS TOKYO」ホームページより三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

(2) スポーツ施設について

大田区内では、大田区総合体育館、大田スタジアム、大森スポーツセンター及び都立大井ふ頭中央海浜公園において。バスケットボールやバレーボールなどの種目で、全国レベル以上の競技開催が可能である。

図表 5 区内で全国大会以上を開催可能なスポーツ施設

施設名	関連施設	主な利用可能スポーツ	収容人数
大田区 総合体育館	メインアリーナ	バレーボール3面 バスケットボール2面 バドミントン10面 など	4,012席 (内訳) 固定席 2,186席 車いす席 10席 可動席 1,816席
	サブアリーナ	バレーボール1面 バスケットボール1面 バドミントン4面 柔道2面 など	200席
大田 スタジアム		野球1面(ナイター可)	3,223名
大森スポーツ センター	競技場(アリーナ)	ハンドボール1面 バスケットボール2面 バレーボール2面 バドミントン8面 テニス2面 卓球27面 柔道3面 剣道6面 など	376席
都立大井ふ頭 中央海浜公園	大井ホッケー競技場 サブピッチ(建設中)	ホッケー1面 など	約500席(予定)

資料) 大田区総合体育館ホームページ、大田スタジアムホームページ、大森スポーツセンターホームページ、東京都財務局建築保全部オリンピック・パラリンピック施設整備課ら「大井ホッケー競技場(仮称)工事計画等説明資料」、大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森ホームページ